

「世界災害語り継ぎフォーラム」開催  
—災害体験の語り継ぎのさらなる促進に向けて—



「世界災害語り継ぎフォーラム」が3月20日から22日までよみうり神戸ホールとJICA兵庫を会場として開催されました。アルジェリア、オランダ、イタリア、アルメニア、トルコ、ネパール、スリランカ、バングラデシュ、ミャンマー、インドネシア、中国、台湾、日本、米国、エルサルバドルなど、多くの発展途上国を含む国内外22か所の被災地から約150名が参加し、活動の報告と活発な意見交換がおこなわれました。



初日の3月20日の鼎談では、河田恵昭さん（人と防災未来センター長）には防災の専門家として、臼井真さん（神戸市立明親小学校教諭）には被災経験のない子供たちと向き合う教師として、ティン・エイ・エイ・コさん（ティンミャンマー・ランゲージセンター校長）国際交流事業と被災地支援活動の実践者として、阪神・淡路大震災の個人的体験とその記憶、それぞれの取り組みについて語って頂きました。その話しは会場の参加者の心に強く訴えかけただけでなく、語り継ぎをとおして被災地の復興や社会全体の防災、減災につなげていくというフォーラムの基調を明確に示すものとなりました。



続くパネルディスカッションでは、パネリストによるそれぞれの組織の活動報告と、それに基づいての討論を行ないました。ここでは国際協力の在り方や、体験者の高齢化や人口の流動化、さらには地球温暖化に伴う気象災害の激化などを踏まえた語り継ぎ活動の役割やその効果的な方法の検討といった、新たな課題も示されました。



2日目の3月21日は、「語り継ぎとミュージアム」「語り継ぎと防災」「語り継ぎとメディア」「語り継ぎと交流」に関するセッションを開催し、世界各地の被災地での取り組みの報告とそれに基づいた意見交換が行われました。また、緊急セッションとして、2010年1月のハイチ地震災害と2月のチリ地震・津波災害に関する緊急報告も行われました。





3日目の3月22日は、各セッションからの報告と本フォーラムの今後の展望等についての意見交換をおこなった後、実行委員長の総括で全日程を無事終了いたしました。



本フォーラムは、2006年1月設立の「世界災害語り継ぎネットワーク (International Disaster Transfer Live Lessons Network, 通称 Tell-Net)」が母体となり、世界各地の災害被災地で取り組まれている様々な災害語り継ぎ活動を互いに学び合い、災害体験を防災・減災に向けて効果的に継承していくためのネットワーク化を推進する目的で開催されました。Tell-Netのこれまでの活動の一つの到達点を示すものではありませんが、それは最初のマイルストーンにすぎません。世界の人びとの防災意識の向上と災害体験の語り継ぎ活動の促進に寄与すべく、今後は、本フォーラム開催にあたって構築しましたウェブサイトを活用し、情報の交換と交流の促進を図りながら、さらなる歩みを続けてまいります。